

武蔵野市第六期長期計画策定委員会
関係団体意見交換会（緑・環境/都市基盤/行・財政）

日 時：平成 31 年 2 月 9 日（土） 午後 3 時 20 分～午後 4 時 50 分

場 所：市役所 811 会議室

出席委員：小林委員長、渡邊副委員長、大上委員、岡部委員、久留委員、中村委員、松田委員、保井委員、笹井委員、恩田委員

事務局が、討議要綱、意見交換会の進行、意見の扱い、今後のスケジュールについて説明し、策定委員会委員の自己紹介の後、意見交換がなされた。

【むさしの不登校親の会ジョナ】 分野が異なるが、子ども・教育分野について発言する。22 ページの 13)「多様な教育的ニーズに応じた指導・支援体制づくり」について、インクルーシブ教育をしていく中で、先生一人ではとても難しい面がある。支援員が常駐するような体制づくりをお願いしたい。

2 つ目に、学校に合わずに行きづらくなってしまった子どもへの支援としてフリースクールなどが増えているが、そういったフリースクールへの経済的な支援、助成金制度の確立をお願いしたい。

【副委員長】 インクルーシブ教育で、補助教員とか支援員に関して、ここでも「配置拡充」という微妙な表現をしている。必ず 1 人配置とは言い切れない状況もあるので、まずはより積極的な配置拡充を目指していきたい。

不登校について、フリースクールを公的に行っている事例もあることを知った。フリースクールは民間のものであるが、若干の支援等をする可能性もゼロではない。フリースクールの重要性とか支援の仕方について、まず策定委員会でしっかりと議論してから、計画案等で皆様にお見せしたい。

【市民まちづくり会議・むさしの】 12 ページ、「第六期長期計画における基本目標等について」ということで、基本目標、基本課題についての表があるが、このマトリックスの中身がその後の取りまとめにうまく反映されていない。

18 ページには「分野別の課題」ということで分野別に出てきているが、体系的に整理して課題を出しているにしては、整理の経路がよくわからない。もう少しすっきり整理されたらいいのではないか。

前段で、市の状況ということで 11 ページまでに整理されている。財政の部分にかなりページを割いているが、今までの計画に対して市民はどのよう

な見解を持っていたか、市民の意見とか団体の意見がどこかで評価として出てこなければおかしい。その評価なしに突然 12 ページ以降に出てくるというのも、結びつきがよくわからない。

財政の面では、武蔵野市は非常に好成績を上げている珍しい市だ。財政的に豊かであれば、市民はそれだけのサービスを享受できなければ意味がない。市の財政をこの状態に保つというメルクマールがあって、それ以上に行く部分は市民に還元するといった財政の使い方が必要だ。

去年、私どもは、300 人くらい集めて、玉川上水とか雑木林とか農地、境山野緑地の議論をしたが、そういったことがここには書いてない。26 ページに、二俣尾とかかなり細かい地名も出てくる中で、足元でやっている活動のことが参照されてない。市民活動の立場で頑張っている者としては、ちょっと残念な気がする。

都市基盤で、「景観ガイドラインによる景観誘導を進める」というのは、何を言っているかわからない。景観ガイドラインを市民ともどもどう実現していくのか、具体的に書くべきだ。

【A 委員】 第六期長期計画では、武蔵野市は日本でもトップクラスの財政余力を持っているので、必要な財政支出はどんどん行っていいのではないかという積極的評価に変えている。

ただ、小・中学校や公会堂の建てかえなど、大規模な投資の可能性のあるプロジェクトが多々あり、まだやるかやらないか決まってない状態で財政シミュレーションを組んだとしても余り意味がないので、外部要因が出てきたところでもう一回シミュレーションをし直していくという書き方をしている。

人口推計に関しても、外部要因が余りにも大きい。財政の健全性を担保しながら、どのプロジェクトをやり得るのかといった議論をしていくしかないということで文章を書いている。

【B 委員】 基本的な方針として、境山野緑地などの雑木林は、市としても今後も緑を残していくという認識は変わらない。管理手法とかコストなどの問題があるので、今後検討していくことになると思うが、武蔵野市の長期計画に大見出しとして緑があることから、お察しいただきたい。

市の緑は今、減ってきているが、一度マンションに変わると、絶対にもとには戻らないことに関しては、私たちも相当懸念をしている。緑の維持にはお金もかかるし、いろんなトラブルも生むが、その辺は今後も前向きに取り組む決意だ。

【C 委員】 雑木林の多様な価値については、委員会の中で共有している。子どもたちにとっても、遊ぶ場所としても教育の場所としても生物多様性を

学ぶ場所としても、非常に豊かな可能性を持っている。

今、緑の基本計画が同時進行で進んでいる。個別計画との整合性をとりながら、今後も話し合っていきたい。

【委員長】 緑のことで、二俣尾の名前が出ているのに、武蔵野市内のほうには名前が出てないという部分について、何を、どう書くのかということは、もう一度ちゃんと考えなければいけないと改めて思った。

整合性がないとご指摘いただいた点について、この分野に限らず、現在の討議要綱は全体的に整合性がないと思う。ある意味で折衷案で出しているのが現在の状況で、ご指摘いただいたことを整理して、計画に持っていくことが目的だ。

【D委員】 武蔵野市の景観ガイドラインは平成29年4月につくられ、それを踏まえて翌年に武蔵野市のまちづくり条例が制定された。

都市基盤の最初の部分では、地域の生活者、事業者、地権者、いわば利害関係者の取り組みに寄り添いながら、まちづくり活動をきちんと進めていこうとうたっている。「景観ガイドラインによる景観誘導を進める」、当たり前のことが書いてあるように感じるかもしれないが、景観ガイドラインから始まって、まちづくり条例があって、そして今回、これを進めていくという新しい論点のページとなっている。

景観ガイドラインの記載の数行上に「都市計画と産業振興施策、農業振興施策等をはじめとした様々な分野との連携を強化し」とあり、マトリックスに沿って、市役所の中でも連携して、それぞれの地域のまちづくりを進めていきたいという思いがここにこもっている。

【一般社団法人きくっと】 子どもを対象として自然体験をするという活動をしている。境山野緑地内の独歩の森でも活動しているが、そこの雑木林は状態がよくない。樹木はマッチ棒のようであり、専門家によると異常な状態であるとのこと。更新することで自然豊かな環境になることは間違いないので、長期計画に、樹林を更新していくという方向性をぜひ入れてほしい。生態系の意味でも、若返れば豊かになる。子どもたちがいい自然の中で勉強していけるように、要望したい。

【B委員】 私も森を愛する人間なので、健全な森が一番大事だし、それを子どもたちに見せてあげるべきだというのもわかっている。そういうフィールドが武蔵野市にはまだ残っているというのは非常にいいことだ。

ただ、武蔵野市の何ヘクタールもない狭い森をどう維持していくか、いろんな意見や考え方、コストの問題がある。それをどこまでここに書き込むか、

ちょっと検討させてほしい。どういうプランがあるか、要望があれば、私も考える。

【一般社団法人きくっと】 方向性という意味では、ぜひ長計に入れていただきたい。

【B委員】 森を維持するとか、ちゃんとメンテしていくというところまでは書き込める。

【武蔵野の森を育てる会】 6)「緑の保全・創出・活用」について、今の武蔵野市の樹木管理は、住宅地の緑も歴史的な武蔵野の雑木林も、枯れたら伐採する、道路とか隣接の住宅に影響があれば剪定するといった、同じようなやり方になっている。緑というのはそれぞれ特性があるわけだから、それに合わせた保全管理をすべきだ。

6)の1段落目は、「残されている歴史的な緑（農地、屋敷林、雑木林など）と市街化された住宅地における個々の緑が複合する住宅都市として、緑の成り立ちや特性の違いに合わせた保全・管理を行い、歴史的な緑と住宅地の緑を守り育て、未来につなげていく」というような表現が必要だ。具体的に言わないと、市民は、書いてある、含まれていると言われてもわからない。

2段落目に、公園緑地の緑について、「魅力ある整備」だとか「安全利用を踏まえた維持管理」と書いてあるが、当たり前過ぎる。武蔵野市の10年計画だから、ターゲットは武蔵野市らしい緑で、それをどのようにするか、実感できる表現が必要だ。

1)の3段落目に「生物多様性等、多様な環境啓発」とあるので、ここでは「公園緑地等の緑については、生物多様性に配慮した緑の保全を行う」とか、7)の2段落目の「多摩地域の森林」も、むしろ足元の市内の森林について書くべきで、「市内の緑の自然環境を健全に育成するとともに、市民が自然とふれ合い、緑の資源の利活用、公益的機能の充実にを図る」など、市内の話を書くべきだ。

7)「緑と水のネットワークの推進」は、つくり出すものが豊かな街並みと書いてあるが、それだけでなく、生物多様性豊かな環境を創出する、そこをちゃんと書いたほうが、市民にはわかりやすい。

【B委員】 まさにおっしゃるとおりなので、紙で出していただければ、当委員会で検討する。

ただ、お約束できない点もある。緑も、公園や農地の緑と、歴史的な、守るべきプレシャスな雑木林があることは、委員はみんな認識している。これを討議要綱に書き込むときに、ひとまとめにしてしまったのはけしからぬと

言われる点はちょっと反省して、分けて書けるかどうか検討する。

【新武蔵野クリーンセンター施設・周辺整備協議会】 新クリーンセンターになり、安心・安全な工場の稼働がされている。今は、周辺環境と、環境啓発施設エコプラザについて検討している。エコプラザは、ごみを減らすことはもちろん、資源として生かしていく施設となっていくと思う。子どもたちに、ごみのこと、環境のこと、緑の大切さを順を追って教えていく機会があったら、とてもすばらしい。ぜひ子どもたちの啓発ということも入れていただきたい。

【B委員】 武蔵野市は幸いに財政状況がいいので、非常にいい、新しい焼却設備が立ち上がったと、私も見学して、本当に感心した。エコプラザの今後の運用については、教育や緑、水循環といったところに使っていくというコンセンサスはとれているので、これはブレないと思う。

ごみは、今後 10 年、人口が少々ふえようとも、ライフスタイルや物流の変化で、恐らく自動的に減少傾向に行くと思うので、私は余り心配していない。エコな取り組みの教育と、それを地域ネットワークに生かしていくことが大事だ。

【E委員】 エコプラザは、10 年前、新クリーンセンターを建設する際の計画時点から、旧管理棟を利用した環境啓発施設という位置づけで今まで来ている。当然、次世代の子どもたちへの取り組みも考えていくと認識している。

【TEAM299】 武蔵野市は、緑や環境に対する取り組みは非常にしっかりしているが、動物行政はおくれていると常々感じている。今後 10 年間の計画を立てていく中で、アニマルウェルフェアの向上という言葉をぜひ入れていただきたい。

基本目標の中に「未来ある子どもたちが希望を持ち健やかに暮らせるまちづくり」というのがある。子どもたちが生活するまちや学校の環境を整えていくことが非常に重要だ。

例えば、市内の小学校 12 校中、11 校で学校飼育動物が飼われているが、ウサギやモルモットなど、複数で生活する習性を持っている動物が 1 頭で飼われている。それはアニマルウェルフェアを配慮しない飼い方で、そういう環境を見て育った子どもたちにその意識が植えつけられるとは考えにくい。

また、DV や児童虐待の 70% 以上は、動物虐待をしていた人が起こしている。動物は人との生活の中で決して軽く見てはいけない存在だ。

学校教育の質の向上という面では、学校で犬を飼って、それで不登校の子どもが登校できるようになったケースもあるので、ぜひ検討していただきたい。

【B委員】 私自身も、動物、ペット大好きで、子どもの教育には非常に重要だということは認識しているが、アニマルウェルフェアはちょっと違うと思っている。

【TEAM299】 動物の飼育全てに関してだ。今年は動物愛護法の改正の年だが、ペットショップの動物福祉とか、飼育施設の数値基準も議題に上がっている。

【B委員】 そこら辺はどこに組み込めるかわからないが、了解した。

【副委員長】 学校で、そもそも多頭で飼育すべきところを1頭のみで飼育している状態があることはご指摘のとおりだが、予算や人材確保の問題もあるので、検討したい。今すぐ学校にウサギを増やすとかいうことは言えない。

【TEAM299】 言いたいことは逆で、1頭で飼うくらいなら飼わないほうがいい。

【副委員長】 その辺を含めて持ち帰らせていただきたい。

【F委員】 高齢化に伴って単身世帯が増えて、ペットを飼う方が増えているが、飼い主が亡くなった後のペットの問題について、武蔵野市ではどのように取り組んでいるか、知っていたら教えていただきたい。

【TEAM299】 個人的には承知していないが、大きな社会問題となっていることは確かだ。武蔵野市ではシニアの方々がどのように動物の福祉を担保しながら飼育していけるのか、その後飼えなくなった動物たちをどうしていくのかも含めて、全て動物の福祉にかかわってくるので、アニマルウェルフェアという形で、検討課題として計画の中に入れていただきたい。

【F委員】 先ほど、防災の話もあったが、ペットを飼っている場合に避難所はどうするのかという問題もある。

【緑町三丁目町会】 エコプラザに、旧クリーンセンターのころからの歴史を学べる場をぜひつくっていただきたい。

26 ページに「食品ロス」がある。ここでは「より合理的な廃棄物処理」と書いてあるが、食品ロスを活用のほうに向けて、そういう記述も入れていただきたい。

27 ページに景観ガイドラインのことが書いてある。「道路における景観性・防災性・安全性」ということで、無電柱化はぜひ進めていただきたい。安全性の向上というところに、歩行空間の確保とか歩行空間の快適性という

表現も入れていただきたい。

【B委員】 食品ロスの活用というのは、どのようなことを考えているか。

【緑町三丁目町会】 防災備蓄の賞味期限切れ間近の缶詰を子ども食堂等必要なところに回していくとか、商店街とかいろんなところで賞味期限切れになりそうな食品を回していくとか、市内の農家さんと協力して野菜等を回すとかいうことで、いろんな活用の仕方がきっとあると思う。

【B委員】 もちろん、当然やるべきことだが、そこは食品ロスに対応していくみたいなおことで書き込んでいる。

【緑町三丁目町会】 廃棄が中心なので、活用というところで何か表現があればうれしい。

【B委員】 ごみの処分に関しては、クリーンセンターでも同じように展示とか啓発をしているのではないか。

【B委員】 エコプラザの展示用にアーカイブ的な要素を設けてほしいという話だが、長期計画の中に書き込むかどうかは別にして、これから運営方針が固まってプログラムを練っていくので、1つの要素として考えたい。

【G委員】 食品ロスについては、市全体としては生活困窮者対策、子ども食堂対策として既に取り組んでいる。ただ、配送料等、今後の取り組みについては検討が必要だ。

子ども食堂については、アトレ吉祥寺と協定を結んで、月何回という形でアトレさんから子ども食堂を運営しているNPO団体に提供している。これも移送コストをどうするかという課題があるが、市としては、フードバンク事業と連携しながら様々な取り組みをしている。

【副委員長】 クリーンセンターのアーカイブはとても重要だ。実は武蔵野市のクリーンセンターに関する多様な議論と対話のあり方は、市民参加のモデル事例としてしばしば取り上げられる。むしろ皆さんから、こういうものをアーカイブ化してほしいということを提供いただいたほうがいい。

【D委員】 無電柱化は、車のための道ということが想起されるので、あえて歩行者に向けた道づくりをしてほしいという意図だということでした。

【西部コミュニティ協議会】 25 ページ、「緑・環境」の1)の第3段落、エコプラザで環境啓発をするということで、各項目については個別に書いてあるが、生物多様性については何も触れられていない。

7) 緑と水のネットワークは、いわゆるエコロジカル・ネットワークのことだと思うが、第2段落はエコロジカル・ネットワークとは全く関係のない話で、別の見出しをつくるべきだ。

第3段落もエコロジカル・ネットワークとは関係がない。むしろ、3)に書くほうがふさわしい。

1)の環境啓発の生物多様性について、武蔵野市のエコロジカル・ネットワークのキーになる大きい緑は、井の頭公園を初めとして、どこも武蔵野ではない。武蔵野市のできる生物多様性への事業は、生き物が活動する拠点となる緑をちゃんと整備することで、7)にはそういうことを書くべきだ。

【B委員】 緑と水のネットワークという、移動ができるような環境をつくるのは大事で、そこを書き込むのは当然のことだが、ほかは関係ないから排除しろというのはいかがか。

【西部コミュニティ協議会】 排除ではなく、別の見出しでやったほうがいいということだ。現在書かれているのは、武蔵野市のエコロジカル・ネットワークの話ではなく、他市にこういう緑があると書いているのであって、エコロジカル・ネットワークとは関係ない話だ。

【B委員】 2段目以降は関係ないから省けということか。

【西部コミュニティ協議会】 見出しを違うところにつくる。10番にしたらどうか。

【B委員】 今の話は検討してみる。ほかが入っているのがまずいということで、了解した。

【西部コミュニティ協議会】 エコロジカル・ネットワークの構成の仕方について、ここには武蔵野市としてこうやっていこうというのがない。

【副委員長】 ここでのネットワークという言葉は、我々が策定委員会の中でしっかりと議論し切れていないので、ゴチャゴチャしているのではないか。その辺は我々のほうでしっかり引き取って、ネットワークというコンセプトが何だったのかを確認しながらやっていきたい。

【委員長】 こちらで表現したことが伝わってない部分もあるので、それは伝え方が悪い部分と受けとめて、持ち帰らせていただきたい。

【エコプラザ（仮称）検討市民会議】 12ページのマトリックス的な絵について、物事がつながって考えられているところをどう記述して、それを市民の方、行政の方にも理解していただいて、マルチステークホルダーとしてどう展開していくか、そこがどうも読み切れないうところに課題があると思うので、そういう点を読み直してほしい。

私は教育委員会のシチズンシップ・カリキュラムづくりの傍聴をしたが、クリーンセンター、エコプラザ、ごみの問題、自然の問題がシチズンシップとしてどう反映するか、全然見えてこなかった。武蔵野市のような自治体が

しっかりと先手を打って、ESDを通してどうSDGsに切り込んでいくか、つながりが理解できるようなところが大事だ。

市民参加を武蔵野市はうたっているが、そろそろ若者参加ということを前面に出してもいいのではないか。次世代の人材育成がなかなかできてない。若者が主体的にかかわれるような書きぶりをお願いしたい。

【副委員長】 ESDとかSDGsに関しては、持ち帰って議論していきたい。

シチズンシップ教育に関しては、子ども・教育分野の9)の最後に、武蔵野市民科というカリキュラムを新しくつくるということをうたっている。これは武蔵野市独自の、市民参加の醸成を養っていくようなものをカリキュラムとして考えている。

若者の参加は、物すごく難しいという現実もある。若者は忙しいのと、お金の問題等もあるが、このあたりについては、我々として何ができるか、改めて考えていきたい。

【けやきコミュニティ協議会】 子どもたちにいろんなところにかかわらせていくという話をしていくと、優秀な子ばかりがそこにたどり着いてしまうような感じがする。いろんな子どもに日が当たるような形、興味のあるところを引き出してあげられるような提案をしてもらいたい。

私は、2007年から8回続けて「子どもがつくるまち むさしのミニタウン」という子どもたちのイベントをやってきた。残念ながら、運営する側の問題であったり、また子どもたちの性格が変わってきた、環境が変わってきたという部分で、9回目はなし得なかった。子どもが主体のイベントをやっていく中で、子どもが来なくなったのはどういうことだったのか。この10年で物すごく変わってしまったという部分も含めて、次の長計の中に、問題を見つけていく場みたいなものも含めていただきたい。

【副委員長】 我々の目線から、子どもにこうやってほしいと思っても、子どもにとって、それが楽しくなかったら、子どもは続かないし、恐らくいろんな社会変化が起きているのも事実だ。子どもにとっても参加できる、かつやりたくなるようなことを努めて我々としては考えていきたい。

【一般社団法人きくっと】 私は、第六期長期計画というのは、第六期長期全体計画だと理解している。責任ある方が、それは当たり前だから書かないというふうにはしないで、表現は工夫するにしても、軽重をつけたりしないで、うまく整理して、これが長期の全体像だというふうにしていただきたい。

【エコプラザ市民検討会議】 先ほどの教育について、市民科を立てて失敗している自治体もある。そういうところから学ぶことも必要だ。エコプラザの検討市民会議から言うと、こういう施設を利用して、お互い市民同士が学ぶ、それがあある意味でシチズンシップを向上させることになる。長期計画の書きぶりも、軽重をつけるのではなく、長期計画としての基本方針をわかりやすく書いていただければありがたい。

【委員長】 言い足りない点とか、補強する形で言いたいことがあれば、積極的に文書でお出しいただきたい。

事務局が、意見交換会終了後の追加意見の提出方法を説明し、緑・環境/都市基盤/行・財政分野の関係団体意見交換会を閉じた。

以 上